

附屬書類添附

大正七年八月十二日

駐政務局 第二課

21846

公第壹号
大正七年八月一日

在海拉爾

副領事 佐々本静之

外務大臣男爵後藤新平殿

在滿州里本部人引揚ノ件

本件ノ關係ニ付 佐藤總領事ノ經由ニテ 數回及電
報 運送 間 往 々 其ノ 状 況 由 承 知 ノ コト、 被 考 ノ 言
ハ 其ノ 實 情 ノ 概 々 別 紙 録 事 乃 且 報 告 書 致 具
本 信 宜 送 付 在 哈 爾 濱 領 事 館 領 事

在長春日本領事館農安分館

21846

長春(張水滄原稿)

在滿州里本邦人引揚鎮未

本官カ哈爾賓ニテ待命中滿州里出張ニ昇元時電
訓ニ接シタ人本月廿一日午後六時三十分ナリシガ故ニ同日
滿州里ニ在ル本官等ノ請求ニ依リ盛岡巡査部世以下
四名ノ警察官隊出發シトモ又他方ニ於テセメノ軍
か過激派軍ノ方カ露支國境ニ陸迫セリ本官軍官
一部及在留邦人中婦女子左部百三十名ハ拉爾
引揚ニテトノ情報ニ接シタリ以テ急遽逃竄セリ
警察官一行ト共ニ同夜十一時哈爾賓ニ出發シ
テ二十三日午前七時滿州里ニ到着セリ

在長春日本領事館農安分館

ハラス敵ハ如何ナシ故カ二十三日午後方ニ退却シ二十三日
日及二十五日ノ三日間極メテ静穏ニ過キタリ然レ二十五日
に至リ再び優勢ノ敵軍殺到シ本官等一時セメノ軍
ノ陣地ニ夜襲シテ之ヲ奪取シ更ニ前進肉迫シタリ物
砲聲艦々终日鳴ミ本官等親シク市ノ背而高地ニ於テ
四敵陣地ヲ見テ二十七日早朝セメノ軍ハ
敵ノ陣地ヲシテ前カ先ト陣地ヲ奪取シタリ本官等
ヤン敵軍ノ方カ包圍セリ再ニ放棄退却スルニ止ム
リ大勢到底悲観ノ外ナシセメノ軍カ現陣地ニ能ク支
持シ得ルニ僅ク一二日ニ止ムルコトニシテ同日午後
一時本官軍官等謀議ニ依リ本官等ノ降武官ヤン在留邦人
引揚ニテトノ情報ニ接シタリ在留邦人等ハ如何ナリ本官
引揚ニテトノ云々ニ依リ在留邦人引揚方ニ開シラ

長春(日本領事館)

訓、揺し居たり事、連本官ハ直々ニ意ヲ決シテ引揚ヲ
断行スルコトニセリ然ルニ市内ノ露國住民ハ一日日本人
ノ態度如何ニヨリテ其進止ヲ決セリトモカ如キアムシ
テ俄ニ日本人間ニ動搖ヲ起スルハ其波紋ハ露國人間ニ傳
ハリ市民一般ニ騷擾スルに至リテ市街ヲ近距離ニ在
ル軍隊ノ士氣ニ沮喪セシメ後方ヨリ退却ヲ初メ在軍ノ崩
潰ノ果サハ甚ク慘害測ラズ知ルカラスンノアリトシテ本官側ヨリ
要求シアリシハ可成目立タヌ又極引揚ケテ了ラセトシテ形勢
ニ変化ナキ限リ後手ニ至ラズ之ニ敢テ夜半人知ラズ準備シ
テサシムコトニセリ

在長春日本領事館農安分館

同日夕刻ニ至リ本官ハ新報ニ依リテ表面原形後述ノ
如クニ察シ貨車三台ノ配付ヲ豫約シ之ヲ却人隠匿者ノ
手荷物運搬ニ充ツル計畫ヲ立テテ形勢切迫スル時
三台ノ貨車ヲ入庫スルノ願ハ孰モ事ナクシテ一夜十時在留員
右部ノ官車ヲ行シ十二時本官ハ當時高帯五午ノ整定案官
二名ヲ帶同シテ臨場シ左記右記ノ極細作中ニ
一、引揚ハ可成目立タヌ極高帯七時案ノ卸便列車ト同
九時案ノ混入列車ト同一回ニ台々之ニ行フ
二、解凍地矣ハ一先ハ海拉爾ト定メ
三、引揚者手荷物用トシテ貨車三台ノ準備アリ凡到底迄
制限ニ運搬シタルヲ以テ若シ人ハ二回ワトス但し貨車
内ニ携帶スルハ限リトス
四、在留員中ヨリ荷物係ノ指定シテ高帯ノ移動ニ殊ニ監視
ト一位ニセリ
五、貨車積荷和サハ高帯五時迄、停車中一定場所ニ蒐
メ六時迄、轉込シテ終ルコトトス

長春(積本館農安分館)

六、本夕、協備を工列席とて之ノアトハハ正構一ニヨリ可成車
以御車也ノ通道ニト

本官ノ居留民總代カ出者ヨリシテ避難ノユトク協備セシムルヤ我
在留民ハ同僚ノ覺悟シ居タニト申何人モ異議ナク御ノ御ノ
ナリ特ニ婦女子ハ既ニ去リ廿日海拉角ニ引揚ケ居シニトナシ
ハ別ニ短時ヨリ引揚準備ノ計シテ不手ヲ計ラニナリ協備ハ
極メテ年終ニ行シ午前一時半迄部々御了シ博ノ散
會ニシテ之ノ際シ難保ヲナリ博報到達シシコトノノ軍ノ一
部ハ日夜中ノ満海軍ニ撤退シ南極ノ諸隊ハ明朝迄ニ退
却ニ覺ラ由リ知ラタニシテ俄然引揚協備會法戦ノ亦
一項ハ之レヲ変更シテ荷物係十七名ノ係リ外全部午前
七時迄引揚ニシテ避難ニシテ午前十時命ナリ

在長春日本領事館農安分館

陸定ノ行跡ヲ究知シ兵手シカレトノノ軍引揚ノ報ハ夜
中散ノ軍隊係係人ヲ俚テ市内ニ傳播シタニト見入
漢車ノ乗車前ハ軍人空後者ノ避難者ヨリ之ノ先出シ顯ハ
長難ヲ極メテナリシカ在留民ハ陸ノ引揚ノ手筈ヲ探知シ
置キタルヲ以テ一線ハ一人ノ乗リ後シタニト又ナリ又何ホ
事故ノ發生マカリシハ本官ノ使伴ト云ナリ

引揚部人故ハ去リ二十日避難シタニト百三十九名引揚
人員百三十四名アトモ繁クシカ日々各自隨意ニ出奔
シタニトテ二十日午前引揚シタニト人員ハ旅行者ト共ニ後
名ナリ本官ハ前記立寄南密希島總領事館ヨリ
出陣中ノ以テ五郡長盛國傳ハ巡査正洋中即ノ二名ノ伴
ト同列ニシテ引揚シテ海拉角ノ向ニヨリ午後一時正迄
事ノ到リ着シテおハ引揚ノ際陸定シテ手

長春（日本領事館）

高知孫河保トシテ無思トスル十七丸ニ至ル時途中
故障ナリ全部止ル到リテモ

世令村外引揚ノ際強クミル高知孫河保トシテ無思トスル十七丸ニ至ル時途中
故障ナリ全部止ル到リテモ

高知孫河保トシテ無思トスル十七丸ニ至ル時途中
故障ナリ全部止ル到リテモ

高知孫河保トシテ無思トスル十七丸ニ至ル時途中
故障ナリ全部止ル到リテモ

別冊引揚人名簿付

(七月三十一日稿)

長春(5)

公事簿より抄録

在滿州里引揚中邦人名簿

七月二十日午前九時出發

府縣別	現住避難地	職業	氏名
北海道	海拉爾新市街	雜貨商	米谷三吾
長崎縣		洗濯業	篠崎ス工
熊本縣			渡辺工ワ
長崎縣			尾上サヲ
熊本縣			阿南教男
熊本縣			松下ハル
福岡縣			藤井マツ
大分縣			小出マサノ
鹿兒島縣	台旧市街	料理店	若松キク
長崎縣		酌婦	野口スマ
台		酌婦	川内ト

哈爾濱日本總領事館警察署

長崎県	北海道	〃	〃	〃	長崎県	熊本県	〃	長崎県	長崎県	佐賀県	〃	〃	長崎県	熊本県	廣嶋県	〃	〃	長崎県
	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
(兼用)	(長)	(長)	(中山)	(万)	(友)	(電)	佐	佐	在	酌	酌	酌	酌	酌	酌	酌	酌	酌
島崎重男	菊岩ツナ	岩崎三才	森川工一	福島才	坂本工一	〃	上田友吉	吉丸甚助	赤木博明	中島ツナ	津田ツタ	戸崎三ノ	荻田フミ	中村三工	正木ハル	井上三才	浜田ツタ	塚本リキ

哈爾濱日本總領事館警察署

長崎県	左	熊本県	大分県	長崎県	左	左	左	熊本県	熊本県	熊本県	長崎県	福岡県	左	左	左	左	左	左	佐賀県	
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	旧海防街
(重男音)	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	(早妻)
島崎秋男	宮崎ハヤ	浜ノヨノ	相模野マツ	島田ウナ	活エギク	山下ソカ	福島チエノ	福島ヒサユ	長野マエ工	長崎コト	福田アサハ	野中マサエ	嶋崎ワル	上田マツ	村上イノ	鶴サミ	三原ワフ	有村サワ	今村ヨシ	

哈爾濱日本總領事館警察署

島取果	熊本果	鹿見島果	長崎果	佐賀果	久	久	熊本果	熊本果	久	熊本果	久	愛媛果	久	熊本果	三草果	久	長崎果
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	旧市街	ス	ス	海軍新街	ス
久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久	久
碓岩花子	其上ハル	本場ニツ	江口ニワ	藤原ニサヲ	峯ヶサ	海ノサ	中原フ	田中知久	山口コメ	塩先スエ	五島クミ	山口マツノ	海初菊	白石クワ	馬場タマ	竹内キク	東ノナ

哈爾濱日本總領事館警察署

(昭和19年)

熊本県	熊本県	熊本県	京都府	鹿児島県	〃	〃	長崎県	〃	熊本県		〃	〃	〃	〃	〃	〃	熊本県	〃	鹿児島県
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐々木	佐々木	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	酒	酒	酒
片山	川田	浜	須川	藤尾	松永	平野	宮本	山崎	若森	川	亀子	松本	泉	林	神田	菅原	浜	若松	若松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松
山	田	ス	川	尾	永	野	本	崎	森	子	子	本	ク	ク	田	原	瀬	松	松

哈爾濱日本總領事館警察署

長崎県	岩手県		佐	熊本県	愛知県	熊本県	佐	愛媛県	佐	熊本県	福岡県	愛媛県	長崎県	佐	熊本県	長崎県	廣島県	大改村	熊本県
〃	〃		〃	〃	上	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
											旧市街	新市街							
(初立初巻)	(壽吉巻)		〃	〃	〃	〃	〃	〃		酌婦	山江子方 居人	酒業 (あき方下巻)	(重一初長巻)	(重一初巻)	(吉松巻色) (四巻巻)			(幸巻)	黄業
井上 甲斐初	佐藤 工一	佐藤 壽吉	柳本 スエノ	柳本 ハルノ	前田 ツネノ	田尾 工キ	若川 フミ工	川村 タキ	堀 ツメ	堀 ツメ	内藤 トク	重藤 ツヨ	吉田 トメ	全 シズ子	柿久 ハルヲ	永田 之タノ	三宅 シカノ	日野 幸	椋 英ヒロ

哈爾濱日本總領事館警察署

伏見	〆	佐賀	神奈川	京都府	佐賀	長崎	佐賀	熊本	長崎	長崎	熊本	〆	〆	〆	〆	山口	〆	長崎	
〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	〆	
(新見和子)	(三上)	若人翁	〆	〆	〆	〆	〆	〆	京都人	〆	看蔵	(宮内)	〆	〆	〆	(若人)	(若人)	初五	
森次平次	山口アサヨ	山口之工	佐野千ヨリ	和野キヲ	森ハル	戸田フデ	石井ハギ	長幡エキ	田島キヨ	登川口	田中ソネ	田川マサ	吉田シマ	小年田ハキ	山崎タケ	山本フデ	原田クニ	浜口ヒデ	大津キヨ

哈爾濱日本總領事館警察署

男 八名
女 二七名
計 三五名

七月二十一日至二十七日迄引揚人名

麻里別	現住羅雅地	職業	氏名
鹿見島	新田市街	医師	久保宗方郎
会	日市街	理髮業	龜正太郎
岡山県		仕立物業	桑井善三郎

哈爾濱日本總領事館警察署

長崎県		正勤方(正勤方)	阪本二平
小樽道		雜貨	末春幸郎
佐賀県		理髮業	井上吉太郎

男 五名
女 一名
計 六名

(印)

長崎県	長崎	大阪府	徳島県	長崎県	熊本県	山口県	〃	付島県	長崎県	熊本県	〃	〃	長崎県	徳島県	東京市	長崎県	府県別	七月或拾日午前七時去友人名
旧市街	旧市街	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	新市街	海田市街	現住地	
租賃	大工業	市立衛生	任立	漁夫	〃	海軍造船	以時商人	時計商	〃	〃	〃	〃	洗濯業	時計商	畜飼業	洋服商	及租田業	職業
章吉寛就	上田友吉	石田則雄	藤井喜一郎	本島長太郎	松下八儿	島田	中尾明	香田末吉	浦田宗太郎	伊豆寛	源又英之八	〃	〃	〃	小野貞就	永井宗治	藤田鯉尔	梅坂栄吉

哈爾濱日本總領事館警察署

熊手果	〃	〃	廣嶋果	大介果	和智果	長崎果	〃	〃	熊手果	長崎果	付賀果	付賀果	〃	長崎果	小通	熊手果	山梨果	〃	長崎果
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
料理店	長女	長男	長男	空果業	料理人	近藤人	〃	理髮業	若林業	張負	〃	理髮業	理髮業	理髮業	飲食店	龍宮業	在交職	空果業	葉種商
廣嶋果	廣嶋果	〃	板尾陽二郎	高相鏡	國家福太郎	近藤三郎	丸柳喜丸	白石茂七	川原政太郎	七浦松太郎	小副川守一	井上吉太郎	錦井英市	長田吉吉	菊谷長作	信崎三太	城内吉成	中山市壽	福島力雄

哈爾濱日本總領事館警察署

(昭和12年)

長崎県	大分県	福岡県			熊本県	福岡県		熊本県	鹿児島県	大分県		熊本県	宮崎県	熊本県	兵庫県		愛知県
5	5	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎
尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎	尾崎
古賀	富田	海新	池端	吉田	帯川	柳文	高木	片山	片山	日野	小杉	荒木	片山	吉野	宮崎	片山	片山

哈爾濱日本總領事館警察署

七月二十八日午前九時出発者人名		職業		姓名	
和歌山県	旧市街	住人	岩鼻寅市		
東京市		彫刻業	皆川菊次郎		
愛知県		店員	山本周一		
兵庫県		店員	松田秀二		
奈良県		雑貨商	松井隆一		
計	六名				
男	五名				
女	一名				
府県別	現在避難所	職業	姓名		
兵庫県	旧市街	雑大業工	永津壽市		
大阪府		雑業	溝上文治		
福岡県		時新商	中尾良		
大阪府		大工	合田定吉		
熊本県	新市街	雑貨	井上虎八		
鹿児島県	雑業商	雑業商	中尾正亮		
広島県	新市街	住人	田部甚作		
長崎県	旧市街	大工	吉丸甚助		

哈爾濱日本總領事館警察署

計	女	男						長崎県	滋賀県	三重県	熊本県	福岡県	長崎県	佐賀県	長崎県	朝鮮	〃	〃	長崎県	旧市街	大工	上田友吉
二〇名	〃	二〇名						住人	雑貨	雑貨	雑貨	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
								山下 三郎	馬場 治三郎	竹内 栄之丞	川原 政太郎	村上 治	松本 善我	大場 猪太郎	島崎 兼男	金 亨 錫	箱田 京治	章村 竜藏				

ハルビン日本総領事館警察署

第14428號

大正七年八月十三日接獲

駐政務局 第一課

八月十二日

八月十三日午前十一時五分發
八月十三日午前十一時三十分着

電報

宛

在

武勝少將

武勝三首一號

九日ツアガン驛 采 他大敵精信スヘキ 謀者ノ言ヨリ
「メノラ」支隊前面ノ敵ハ漸次汽車輸送ヲ以テ「外
ウリヌ」ヨリ「ウエルフネウジンス」ニ向ヒ増援シツア
リ同地附近「セレン河」畔ノ戦闘ハ激烈ニシテ 戦況
「エヒ」軍ニ不利トカ如レ

陸軍

ニ「ホムカ」ウムカニ方面ヨリ蒙古馬隊近日「セメノフ」
支隊ニ到着ノ豫定ナリ「セメノフ」ハ此際支那人歩
兵隊ノ大部ヲ解散シ支隊重カヲ策馬編成
ト「カ」ントレワ「アリ」

註「ウケムカ」ハ滿州里南方約八十里ノ地方

電信課長

支

大臣

附了

哈爾濱

本署着大正七年八月十九日

次官

後藤

外務大臣

佐藤總領事

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第二五号

本朝滿洲里ヲ度ニ當地ニ歸レル密偵ノ
報告ニ依リテ吉田雜貨店ニ其硝子ヲ破
壞セラレ人ノ出入自由トナリ島崎商店
ニ於テハ崩賊ノアリタル形跡アリ又近藤

新三郎ハ米五十俵ト空樽ヲ同店雇支那
人ノ為メニ盜マレタリト

本官カ滿洲里ヲ去ルニ際シ同地交渉商及
軍司令部ニ邦人ノ財産保護ヲ依頼シ置
タルニ拘ラズ斯ノ如キ崩賊横行セルハ支
那官憲ノ取締不充分ナリト考ヘラルル
ニ付此旨吉澤領事ニ轉電シ支那文武官
憲ニ嚴重交渉セシメラレタリ尚今日迄ニ
蒐集セル情報ニ依リテ過激派ハ掠奪ヲ行
ヒタル形跡ナシ恐ラクハ支那人ノ處置ナリト

懇ノラル
 本電報大臣、在支公使及齊、哈爾、轉電シ
 請フ
 大正七年八月廿一日。長春至由

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

一〇四三
四時

哈爾濱電報
 本名署
 大正七年八月十六日午三時
 後藤外務大臣
 佐藤總領事

政務
 七ノノフ橋隊ハ仙厨例ヨリノ送金杜絶セル為
 財政上頗ル窮境ニ陥リ兵士ノ給料モ七月分ノ
 支払ヒ出来カニ有様ナシ處斯ノ如キ窮状ニ置
 クハ從來ノ行營リハ勿論然テノ莫ヨリ考ヘ帝
 厨ノ為不利益ニ付至急財政上ノ援助御決行ア
 リ度ク金款ニ關シテハ武藤少将ヨリ奉澤少将
 へ累次電報セルニ付全部ト御打合せアリタシ
 在支公使ハ轉電セリ
 (長春經由八月十九日午八時)

社
 長
 佐藤

51

秘

秘授14559號

秘

大正七年八月十六日接受

警務局

策課

セタ

電報

宛

在

武蔵少将

八月十四日午前十一時
十五日午後五時四分著

八月十五日

總務部長
哈作第五號

義勇兵一部、解散並賑恤、爲豫テ御通知、
五萬圓御送附方御盡力ヲ請フ

陸軍

電信課長

支

一〇八二四 (暗)

省令 省令 大正七年八月十八日 前一二五〇

大臣 閣下

次官

十

第五一號

後藤外務大臣 大澤領事代理

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

東支鐵道西部線之配置カレアル日本義勇兵ハ社電第三七號ノ通軍隊トシテ何等ノ節度ナク其ノ存在ハ徒ニ幸端ヲ醸成スルノ虞アリ既ニ我軍隊出動ノ確定セシ今日彼等ハ全ク無用ノ長物トシテ謂フヘキモノナレハ速ニ之カ解散ヲ行フコト最モ得策ナリト思考セラレハ處此際彼等ヲ

後藤 陸軍 大澤 領事 代理

三

一 拳ニ解散スルトキハ或ハ乱暴ヲ働キ是外ノ稽率ヲ惹起スルガ如キコトナキシ保セザル模様アルニ付我相當作憲ニ於テ軍官憲トモ協議ノ上往幸蒙匪関係者ヲ解散シタル例ニ倣ヒ一先ツ之ヲ南滿地方ニ引揚ケシノ適宜解雇セシムルコトニ致度ニ本件ニ関シ何分ノ所措置ヲ請フ存支公使在官再續統領率ニ轉電ニ依々本々暗号ノ傍郵送セリ

(長春中陸八月十七日 前一二五〇)

通信課長 佐々木 中ノム

大臣 陸軍

大正七年八月十九日午前九時

次官 陸軍 第四三號

政務 齊藤隆夫 宛電報

通商 第三二號

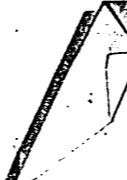
人事 東京後外務大臣宛電報第一號之関
當地陸軍出張員ハ既ニ參謀本部ヨリ義
勇兵解散ノ命令ヲ受ケ居リ遂次実行シ

會計 東京後外務大臣宛電報第一號之関

文書 東京後外務大臣宛電報第一號之関

參政官 佐々木 宛電報第一號之関

副參政官 佐々木 宛電報第一號之関



大正七年八月十九日接受 駐政務局

第一課

吳如南

秘

被没14657號

電報

八月十七日

八月十六日午後四時四十五分發
八月十七日午前三時三十分發

宛長

宛

在武

藤

少

將

哈謀一〇 (至急)

十五日黒木大尉報

信るニキ間謀ノ言ニヨリハ敵ノ兵力ハ「ダウリヤ」シヤラスン

間ニ千「シヤラスン」傳車場ニ砲四門 機関銃四「マツエ

フスカヤ」ニ騎兵三〇砲三門 機関銃二アリト

旅順、北京濟

外

陸軍

REEL No. 1-1290

0324

22674

附屬書類添附

大正七年八月廿壹日

警務局

第一課

公第 四 號

大正七年八月十四日

在海拉爾

副知事 佐々木 静五郎

外務大臣男爵後三條新平殿

滿洲居留民 姓名通報之件

本月一日附公第一号ノリツ及少報告ニ表記ノ辭

難者名ニ爲ハ高時根 難ノ際急ニ陳ニ調査シタリ

揚後直ニ旅行シタリ又ハ位所ニ立退所 偏在ニシテ

査漏トナリタリ者有之ニ其後再調査ノ事ニ上

別紙追加名簿ヲ作製シ及付送シ 万少査問方ニ

在哈爾濱日本帝國總領事館

其前四報告ノ其滿洲里引揚人員總數ハ男女

合計ニ百四十九名ノ有之ニ

右中付シテ致具

本信定區付シ 在哈爾濱領事

滿日社印

在滿州里引揚本邦人名返報

七月五日按志日引揚分

府縣別	現住地	職業	氏名	摘要
長崎県	海拉不新市街		古賀クニ	記入
北海道		看護婦	古賀マス	記入
厚見島県	旅行中		菊池トキ	調査済
熊本県	海拉不新市街		長須カネ	調査済
長崎県		雇人	森井トシ	調査済
長崎県	海拉不新市街	旅館業	川下一三助	調査済
長崎県	海拉不新市街	雜貨商	日高運回郎	調査済
長崎県	海拉不新市街	雜貨商	伊集初五郎	調査済
長崎県	海拉不新市街	雜貨商	山崎三三助	調査済

在哈爾濱日本帝國總領事館

七月十八日午前九時迄返報分

長崎県	海拉不新市街	旅館業	順崎忠徳郎	調査済
茨城県		氏名書記	大友睦生	記入済
熊本県		雜貨商	山口大作	記入
福岡県		雇人	藤沢新八郎	調査済
長崎県		雇人	梶川登	記入
		常務取締役	力武義市	調査済
		海業	安生順一	調査済

男
一〇三
一三六
二四九
合計

滿日社印刷

支

第九

第一課

第五

セシラ

第二課

在支

林公使

後藤方是

電第 RARR 第...
大正七年八月廿日

第六七七号

形(俵)

セメシシ(軍) 信後在軍中等の満鉄

輸送(件) 第九

外務省

事(信) 第九

満鉄：松テハ半額多クハ是

非支拂ヲ多ク受ケ旨ラ主信ニ戻ルタメ

券電カ九五三号ノ分ハ勿論ノ旨ニモ

第九ノ号ノ分 未タ、決着セザル

次第ニ(比) 将来(比) 送金シタ

物電ニ、右は合(外) 上(外) 対シテハ

運賃人(何) 算見ノ上(何) 何等云

ミツト せろし 花 操 移し 夕し 為 念

外務省

REEL No. 1-1290

0328

大正七年八月廿二日接 駐露高 第一課 〇七セメノフ

電報

八月二十一日午後四時十分發
八月二十一日午後一時五分着
參謀次長 宛 在 武藤少將

哈謀第二〇號 (至急)

十九日海拉尔黑木報ニ依ル支那側ノ情報
最初「セメノフ」支隊ニ對シ一万余ノ過激派軍中「マデヤル」
人ノ大部ハ西方ニ去リ後員加「コサツク」ハ逐次郷里ニ
歸リ目下「オノン」以東ニハ三ヶアリ「ガウリヤ」「マツエ
フスカヤ」間約一千「アバガイド」村ニ五六百駐屯スト而シテ
最近「セメノフ」支隊ニモ略同様ノ諜報アリシト云フ

陸軍

秘密

秘 視没14812號

外

正七年八月廿二日 警務部 第... 田

公第... 號

大正七年八月十三日

在海拉爾

副領事 佐々本 靜 九

22779 號

外務大臣... 後之... 新平... 殿

滿洲里情報報告ノ件

八月廿八日午前七時発列車... 我居留民ノ大部... 午後十時半發臨時列車... 全部... 撤回... 引揚ケ来リ及返... 留民ノ... 影響...

在哈爾濱日本帝國總領事館

一、過激派... 解除... 市中... 自由... 步行... 如シ
二、過激派... 湯... 日本... 物色... 発見... 兇手... 如シ
三、過激派... 七月廿日... 頃... 市内... 於テ... 如シ

秘 14923 號

大正七年八月廿四日接受

駐政務高 第一課

八月二十三日

八月二十日午後四時三十分着
八月二十日午後十時四十分着

電 報

參謀總長(至急宛)

在 第七師團長

セメヨノ支隊ハ昨二十一日正午敵ヲ駆逐シテ滿洲里北
 方國境線ヲ占領シ支隊ノ先遣隊ハ今二十二日無事滿
 洲里ニ下車セリト
 沿道ニ於ケル日支兩國民並チエツク支那軍隊ノ歡迎
 ハ依然前報ノ如ク尚露國民就中興安嶺以西ニ在リ
 露國避難民ハ日本ノ義勇的高誼ヲ強記シ日
 本軍ノ勇武ニ依リテ舊所ニ歸リ安全ナル生活ヲ為シ
 得ハ日本軍ノ成功ヲ企圖セルモノアルヲ見ル

外

陸 軍

新次 14999 授受

大正七年八月廿六日 授受
至急 親展

駐政務

第一課

八月二十五日

電報

参謀次長宛

在

藤井 中將

八月二十五日 午前七時四十分

五

セメ

一昨二十三日民留地ニ於テ我カ義勇兵ト支那軍トノ間ニ
衝突発砲シ互ニ死傷アリ本件ニ関シテハ成ルヘク
事ヲ穩便ニシ国際関係等ヲ惹起セサルヲ有利ト
認メ本職カ^撥都合ヨク之ヲ解決セリ我カ義勇兵ノ
派遣地ハ諸種ノ莫ニ於テ不利ナリト認ム此際速ニ
全部ノ解散ヲ希望ス

二武藤機関ノ多クハ露国通ヲ以テ成リ支那通ノ者甚
タ尠ク日支親善上隔靴搔痒ノ感アリ該機関
ニシテ今尙ホ存在セシメラルハ此際是非^際際
支那ノ事情ニ精通セル將校ヲ増派セラルヲ必要ナリト
信ス

三我カ軍支那軍ト協同シ国境ヲ越エテ前進セサルハ
ノエツヒ及ヒセメノ軍ヲシテ敵ヲ撃破シ十分其ノ
目的ヲ達セシムルコト至難ナルヘシ此ノ莫ニ付特ニ御
配慮ヲ切望ス 右御参考迄

大正七年八月廿六日 接受

駐務高 第二課

廿九

至急

八月二十三日

五

電報

電報

宛

八月二十三日午後七時五分

武藤少将

参謀次長

宛

在 哈爾濱

武藤少将

哈作第九號

黒木報ニ依リハ騎兵第七聯隊ハ二十二日午前九時又歩兵第五聯隊ノ先頭大隊ハ同日無事滿洲里ニ進入ス
シヤスン附近ノ敵ハ二十日正午頃「セ」ノ支隊裝甲列車砲撃ニ依リ「ウ」リヤ「ヤ」方面ニ退却ス、同支隊騎兵隊ハ正午八六待避駅附近ノ高地ヲ占領セリ、滿洲軍ニ於ケル支那軍隊ハ兵營ヲ渡シテ承諾シ其 全部ハ滿洲里ヲ引揚ケ後方「ア」ト附近ニ集合スト

外

陸軍

秘没14995號

秘没14986號

大正七年八月廿六日 接受

駐務高

第二課

陸軍文、至急

八月二十五日

五

電報

電報

宛

八月二十四日午後三時十分

關東都督

参謀次長

宛

在 關東都督

關作報第二四號

藤井支隊長報告ノ要旨

一同支隊司令部ハ二十三日午前八時滿洲里ニ到着ス
二支隊ノ主力ハ二十四日中ニ滿洲里附近ニ集結シ得ル見込
三支隊ハ滿洲里ハ六番ニ歩兵一大隊ヲ派遣シテ警戒シ
爾余ハ滿洲里市街南側ニ露營ス
四「セ」ノ支隊ハ「ア」エ「フ」カ「ヤ」西方ハ四番ヲ占領セリ

陸軍

被没14998號

大正七年八月廿六日 接受

駐政務高 第一課

八月二十四日

要旨付了

電報 宛 在 第七師團長

八月二十五日 午前九時三十分發 午後二時也十五分發

水田イカ

外

一、當面ノ敵ハ「マチエノスカヤ」附近東清鐵道ニ小破壊ヲ行ヒ 北方ニ退却セシモノ如ク「セメノフ」支隊ハ速ニ「オノシ」河ノ線 ニ向ヒ前進スルノ企圖ナリ	二、本職昨ニ十二日海拉爾ニ下車シ視察シタル結果ニ依テ曰 露兩國國民ハ大ニ安堵ノ色アリ、本二十三日前八時滿州 里ニ著シ曰支西國軍隊ノ「三」ヲ以テ鐵道ノ修復ヲ待 テ今二十三日前進スルヲ望ム	三、支隊ハ本日中ニハ滿州里附近ニ全兵力(臨時野戰病院ハ 陸軍)ニ二十六日著ノ豫定)ヲ集結シ得ル豫定、関兵ヲ行ハ
---	---	--

廿八日

大正七年八月廿六日接受

管政務局 第二課

要目付了

電報

八月二十四日

八月二十四日午後三時

參謀總長宛

在

武取少將

哈作第十師

秘授14997號

外

ハ、セナノ支隊ニ豫定ノ如ク二十一日滿州里北方國境ヲ
 占領シ主力ヲ滿州里ニ集中シ第七師團モ亦二十三日ニ
 耳リ主力ヲ全地ニ集中シ司令部モ全地ニ移リ、
 第十四旅團司令部ハ步兵大隊ト共ニ二十一日地方内外
 官民ノ歡迎ヲ受ケツツ哈作第十師ノ
 七メノ支隊ニ退却スル敵ニ尾シテ東ニコソウリヤヲ占領シテ
 友軍將來ノ作戰ヲ準備シ立時機先ヲ制シツツホノンニ
 進出シ敵ヲ河川ニ壓迫シ、後ノ作戰ヲ準備スル企圖
 ヲ有スル般ノ情況上ニ有利ト認メ制討セサルコト也

大正七年八月廿六日接獲

警政務局 第一課

要目付了

電報

參謀次長宛 在

閣下報牙二三號

八月二十四日

八月二十三日午後一時五分發
二日午後八時五分發

閣下參謀長

八月二十三日滿洲里発申お参謀報告要旨

一我騎兵隊ハ本日午前八時滿洲里ヲ合飲シ後續七歩兵

部隊ノ先頭列車ハ正午滿洲里ニ到着ス

二セモノフ支隊ハ昨日正午頃「マチエフスカヤ」附近ノ國境

高地線ヲ占領セリ敵ハ何等ノ抵抗ヲ試シルコトナク其主力

ハ「カウリヤ」迄退却シ「カウリヤ」ニ自下ノ敵ノ部隊ハ

「リト」オノ「河」鉄橋ハ依然破壊シカレハセモノフ支

隊ハ爾後「オ」河ノ線ニ向テ追撃スルハ

三滿洲里支那軍隊ハ停車場ニ堵列シテ柚原少将ヲ迎ヘ又

近々其兵營ヲ我ニ引テ後ヲ據ルアリ

四滿洲里ノ難民ハ續々歸來シ「ワ」アリテ其言ヲ録入スル

ニ在留邦人ノ被害ハ餘リ大ナラス加害者ハ過數歟

ニアラス宛ニ支那兵及支那人ナリト

カハル
P. 14

大正七年八月廿七日接受

管政務部 第一課

海謀露報第壹四七號

大正七年八月二十六日 海軍軍令部

秘受15063號

秘

哈尔滨電報(八月二十三日發)

ハ十五日附テ以テザバイカル州臨時政府宣言ヲ取消ス旨布告セリ其ノ要旨ハザバイカル州地方問題ハ今ヤ変シテ對獨塊問題ト為レリト云フニ在リ

一、チエツク、スロワツク、軍ハ九月五日迄ニ集中ヲ完結シ然ル後日本ヨリノ武器補給ヲ待ツテ前進ヲ始ムル豫定ナリト云フ
三、今朝浦塩斯德行支那兵ノ先發隊當地著歡迎盛殊ニ日本軍到着ノ時安ヲ見セザリシ米國

鐵道隊ハ「チエツク、スロワツク」軍到着ノ時ト同様隊伍ヲ整ヘ之ヲ迎ヘタリ
今上電報(八月二十二日發)
昨二十日セメソフ支隊ハ「チエツク、スロワツク」ヲ占領シ本日我騎兵ハ滿州里ニ入レリ

(終)

秘授15145號

秘

要目付了

大正七年八月廿八日接

駐務高

第一課

參謀第三二八七號

大正七年八月廿七日

參謀本部

極東敵情電報

自八月廿四日
至八月廿六日 發

烏蘇里方面

クエフスキー附近ノ戦闘ニ敗レタル敵ハ八月二十五日午前十時頃尚ホシマコフカ附近ニ停止シアリシカ其後烏蘇里停車場方向ニ退却セリ前日來ノ戦闘ニ於テ敵ノ遺棄セル死者約三百ニ達ス
ニカメジルイバロフ附近ニ在リシ敵ハ二十四日夜汽船ニ乗シ退却シマコフキン軍ハ二十五日朝同地ヲ占領セリ

後具加爾方面

一セミヨノ支隊ハ二十四日一部ヲ以テダウリヤラニ十五日ハラノルヲ占領シ主力ヲダウリヤ附近ニ集結中ナリ鐵道沿線ノ敵ノ兵力ハ不明ナルモソクトイノ附近ニ約一千アリ又敵ハ退却ニ際シ鐵道橋給水機ヲ破壊シ各驛ノ井戸ニ毒ヲ投セリト云フ
ニ買賣城發電報ニ依レバウエルフネウチエンスクニ於テハ過激派赤軍中ニ内訌アリ友過激派白軍及哥薩克之ニ乘シテ蹶起セルニ伴ヒ西伯利東進中ハチエック軍(兵力不明)ハ二十一日ウエルフネウチエンスクヲ占領シ一部ハ新セレギンスクニ達シ尚其二部ハ恰克圖ニ向ヒ前進中ナルカ如ク敵ノ大部ハ「ベトロフスキー」ニ一部ハ恰克圖方向ニ退却セリト云フ

サハヤ

瑞典電報

八月二十四日

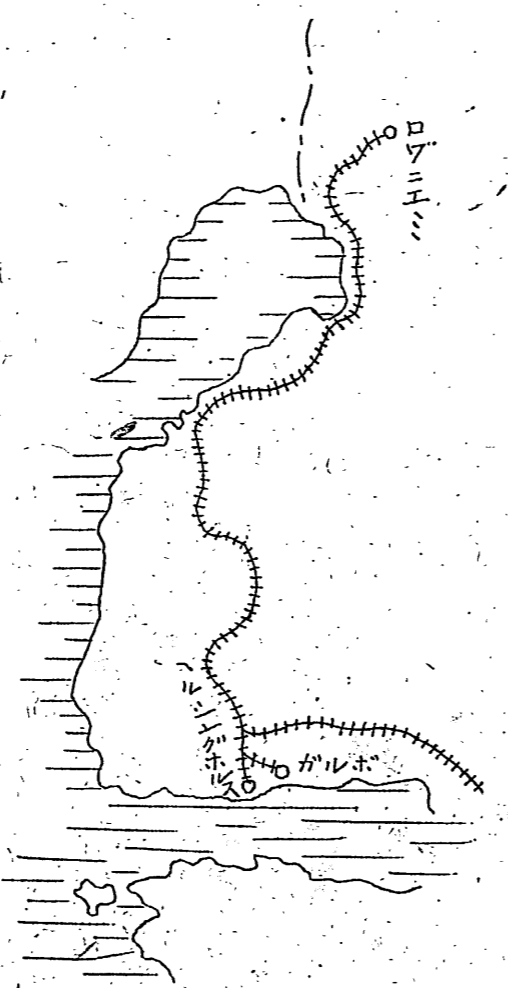
一、芬蘭ノ獨軍ハ目下海陸両方面ヨリ北方ニ輸送中ニシテ「ロ
ブニエ」附近ニ集中中ナルカ如ク同地附近ニハ大ナル野
營アリ

二、曩ニ報告セル獨逸ノ兵力減少ニ就テハ未タ確報ヲ得ス恐
ラクハ南方ニ減シテ北方ニ増加セルナラン

三、芬蘭軍ハ目下一師團ヲ算スルノモ又「ヘルシングホルス」郊外ニ
在ル「フグエアホルグ」要塞ノ戍兵ハ北方ニスル轉進命令ヲ拒
メリト

四、「ハイロウイワチ」大公ハ目下「ヘルシングホルス」東方「ホルカ」滞
在セラル、芬蘭ニシテ獨逸人ノ家族獨逸ヨリ同地ニ移轉ス
ルモノ多シ

五、目下過激派軍ノ大部カ獨逸將校ノ指揮ニ係ルハ始ント公
然トナレリ最近同軍ノ活動稍々觀ルヘキモノアルハ主ト
シテ之ニ因ルナラン獨逸新聞ノ報ニ依レハ「ムルマン」方面
ノ協商軍ノ兵力ハ二万五千ナリト云フ



巴里電報

八月廿五日祭

一、英軍「アラス」シヨールネ間ノ攻撃ハ徐ニ發展シ二十
四日朝「ヌーヴィール」クロワジュール西端「モリリ」ハポーム
西方「イルレー」南方「クールセル」ワト「フリクール」西方「アレ
」東端「フリークール」東端ヲ経テ「リホン」ニ至ル線ニ
進出セリ

二、獨軍ハ近來愈々兵力ノ不足ヲ感シ最近更ニ後備師團
二個ヲ解散セルカ日下大隊三中队機關銃隊ハ縮少編
成替中ナリ

訂正八月二十六日參謀第三三八六号戦況要図ノ北方独
第十八軍ハ第十七軍ヲ誤リ

外

秘 15184 號

大正七年八月廿九日發

駐務高

第一課

各區激反

サバールカ
カ

八月二十八日

電報

八月二十七日午後六時五分發
八月二十七日午前一時十分發

要旨了

參謀次長宛

哈爾濱

武藤少將

哈作第十八號

セメノフ支隊正面ニ在リテハ二十六日一晝夜ニ亘リ緩ク
ル砲撃ヲ交換シアル外大ナル変化ナシ敵ハソレ以テ待
避驛及「ホル」驛ニ集中シツツアリ
「アヘド」到着セシ支那軍隊ハ依然該地ニ在リ

(各地二商)

陸軍

大正七年八月廿九日接獲

駐政務局 第一課

サバイカ

要目付了

八月二十八日

八月二十七日午後一時四十分着
八月二十日午前の特報

電報

參謀總長宛

在

藤井中將

一 藤井支隊ハ昨二十六日滿洲里 附近ニ余力(航空隊及
兵站輸送縱列ヲ除ク)ノ集結ヲ終リ爾後行動ヲ準備
中ナリ

二 「セモノ」支隊ハ二十三日「ガウリヤ」附近ノ敵ヲ擊攘シ鐵
道地ヲ占領シ尙一部ハ昨二十六日ハ「ライ」驛附近ニ於テ敵
兵七百宛三門ヲ基幹トスル敵ト交戦中ニテ主力ハ目下
「ガウリヤ」附近ニ集中シ爾後ノ行動ヲ準備中ナリ
三 敵ノ通過地域ノ井戸ハ毒ヲ投シ俾車場給水機(等)ヲ
ヲ破壊スル等我ヲ水ニ乏新セシメテ前進ヲ遲滞セシメテ
陸軍

四 計リ現「セモノ」支隊モ是カ為メニ前進意ヲ如クナラ
ス
五 敵ハ爾今情況有利ナルトキハ團結シテ全隊ヲ成形スル
不利ナル場合就中日本軍到着後ハ其隊ヲ脱シ却テ
「セモノ」軍ニ投降シツツカル狀況ナリ

電信課長

大臣閣下

次官

十

五

一

六

後藤

外務大臣

菊池

總領事

一六八
(暗)

浦潮 大正七年八月廿日 後一〇四〇

第一課

事務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

松平政務部長 貴芽一八院
參謀總長ヨリ「カラムイコフ」支隊ヲ支持擴
張シテ全島ヲ覆ミ哥薩克ノ自由獨立ヲ
計ラシムルコト此際有利ナリト考フルニ
付實情調査ノ上本官ノ具體的意見ヲ
徴スル標軍參謀長ニ電報アリ依テ卑
見在ノ通具申シ置キタリ

後藤外務大臣ヨリ

援助ノ意味カ彼等ニ武裝被服ヲ與ヘ
カハシコフノ下ニ立テテ島嶼里地方ノ
敵ト戦ハシムルニアルニ於テハ義支ナシ
ト思考スルニ付翌急御實行然レ一ノ
若シ此際諷部屬全般ニ巨リ援助ヲ與
レ政治上一ノ意味ニ於テ獨立セシムル意
ナレハ目下ノ状態ニ照シ機未ク熟セス
ト思考ス行トナレハ目下ホレワト政府
ト西比利亞政府トノ間ニ於テハ妥協交渉
ハ其實中止ノ姿ナレト數日内ニ再ヒ開

めらるるヤを知らず全然談判破裂せし
ニアラサレリ以テ此際又々異ナリタル國
體起ル時ハ更ニ統一問題ヲ困難ナラシ
ムルノミナラス日本政府が表面不偏ノ態
度ヲ執リ居ルモ裏面ニ於テハ「ホルワ」政
府ヲ援助セシメ爲因政府ト關係アル島嶼
羣島薩克^ノ獨立セシメタリトノ非難ヲ
密人及外國人間ニ惹起スルノ虞アレハ
ナリ故ニ前記ノ如ク此際不取敢カハミコ
ソノ戦闘負ヲ増進セシムル目的ヲ以テ

武裝試服ヲ其ノ部^族獨立ハ暫ク時
待ツ方ヲ然ト思考ス